

# 森林環境教育手引書〈小学校編〉を改訂しました!

近畿中国森林管理局 <sup>みのお</sup> 箕面森林ふれあい推進センター

## ☞ 箕面森林ふれあい推進センターの概要

### 所在地

大阪府大阪市北区天満橋1丁目8番75号  
近畿中国森林管理局内

### 活動区域

京都府京都市(旧北桑田郡京北町の区域を除く。)  
大阪府高槻市、箕面市、阪南市、泉南郡岬町

箕面森林ふれあい推進センターは、箕面国有林(大阪府箕面市)を主なフィールドとして、地域のボランティア団体等が行う森林整備への支援や教職員等を対象とした森林環境教育(森林ESD)研修の実施、また、野生動物等により大きな影響を受けた森林植生の回復、森林に有害なシカ等の捕獲の実証試験の実施など、地域の課題解決に向けた様々な取組を行っています。

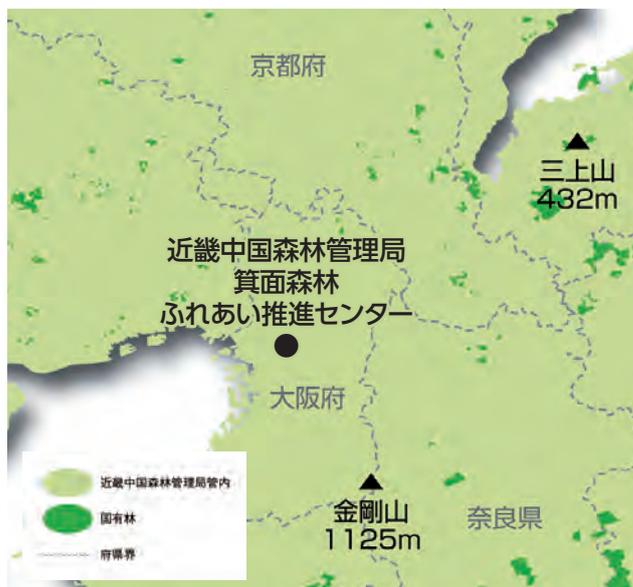


写真1. 森林環境教育手引書

### ◆はじめに

近畿中国森林管理局箕面森林ふれあい推進センターでは、今般、小学校等での森林環境教育に活用できる教材「森林環境教育手引書〈小学校編〉」を改訂しましたので紹介いたします。(写真1)

### ◆改訂の経緯

箕面森林ふれあい推進センターでは、小学校向けの「森林環境教育手引書」を平成24年に作成し、近畿中国森林管理局管内(2府12県)の教職員等の皆様に活用していただいていた。平成29年3月に小学校の学習指導要領が、「社会に開かれた教育課程」を理念とし、持続可能な

### ◆新たな手引書の内容

社会の実現に向けて「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」の育成を重視するよう改訂され、令和2年度から実施となりました。このため、「森林環境教育手引書」を改訂された学習指導要領に対応させる必要があることから、外部有識者、教職員で構成する「森林環境教育手引書改訂検討委員会(委員長・京都教育大学 山下宏文教授)」を設置し、検討を重ね、本年4月に新たな手引書を取りまとめていただきました。

今回の手引書は、「生活科」、「社会科」、「理科」、「図画工作科」の4教科の補助教材として、授業やフイ

### 授業展開例の基本構成・見方

○展開例の主題	→ きせつのおくりもの	
○本展開例を実施する教科の単元	対象学年 小学校1・2学年	実施する教科・単元名 きせつのおくりもの 1年「きせつのはなまつり」 2年「きせつのはなまつり」
○本展開例に関連する教科の単元	関連する教科・単元名	2年国語「たんぼのちえ」「かんざつ名人になろう」 3年理科「生き物を調べよう」 4年理科「季節と生物」
○教科での展開例の扱い方の説明	テーマの目標	【知識・技能】 ・フィールドビンゴのやり方を理解し、ビンゴシートを作成することができる。 ・ビンゴシートを使用し、仲間と協力してフィールドビンゴを行うことができる。
○関連する教科との横断的な視点	【思考・判断・表現】	・見つけたものが、季節の特徴を表しているものかを考え判断する。 ・振り返りシートに気付いたことや考えたことを絵や文章で表現する。
○展開例全体の時間配分や学習の流れの説明	【学びに向かう力】	・季節の変化に興味を持ち、季節の特徴を見つけようとしている。 ・見つけた季節の特徴を伝えあい、深めようとしている。
	→ 単元における森林環境教育の位置付け	
	・四季の自然の変化に気づき、五感を働かせてフィールドビンゴを楽しみたい。森林や植物園などで定期的に実施できることが望ましいが、都市においては、校区の公園や校庭、神社の鎮守の森などを活用したい。留意点は、道具や草席が多く樹木の少ない場所よりも、樹木が豊富な施設を選択したい。樹木に着目できる環境を選択したい。	
	→ 教科横断的な視点	
	・国語で学習した「たんぼのちえ」「かんざつ名人になろう」などの自然を取り扱った教材と関連付けて取り組みたい。特に「かんざつ名人になろう」の具体的な実践事例として活用したい。事実と考えを区別してかんざつシートに記入させたい。 ・図画工作科では、季節の風景を描いたり落ち葉、どんぐりなどを材料として使用したりすることがあるため、単元の配当時期をそろえて連携したい。	
	全30時間	
	時数	各時間の学習課題と主な学習内容
	6	○春のフィールドビンゴ ・五感を使って春の自然と触れあい、フィールドビンゴを楽しむ。 ・仲間と気づきを交流して深めよう。
	6	○夏のフィールドビンゴ ・夏の自然との違いに着目してフィールドビンゴを楽しむ。 ・仲間と気づきを交流して深めよう。
	12	○秋のフィールドビンゴ ・秋の遠足などを活用して実施したい。 ・仲間と気づきを交流して深めよう。 ・落ち葉や木の葉などの採集や工作などにも取り組みたい。
	6	○冬のフィールドビンゴ ・一年間の変化にも着目したい。姿を見せなくなったもの、姿を変えてきたもの、大きな変化のないものに分類してまとめる。 ・仲間と気づきを交流して深めよう。

図1. 授業展開例の基本構成・見方

ルドで活用いただけるよう、教科ごとに以下のプログラム（授業展開例）を掲載しています（図1）。

●生活科：「きせつのおくりもの（私の木）」、「きせつのおくりもの（私の木）」、「樹木ハンター（クスノキを確保せよ）」

●社会科：「〇〇まちの木を育てる人の仕事」、「樹と水と人の共生を目指す水源地の村づくり 奈良県川上村」、「国土の森林を未来につなげよう」、「大仏殿をつくる」

●理科：「クスノギのひみつ（クスノギに

集まる生き物のつながり）」、「季節による森林（樹木）の変化」、「森林ができるまで」、「環境を守るには？（森林のはたらきに目を向けて）」

●図画工作科：「葉っぱを集めてラミネート」、「写してコラージュ」、「結



写真4. 創作紙芝居 もくざいのヒミツ



写真3. 森林環境教育教員研修



写真2. 森の探検隊

森林環境教育手引書に関する情報は下記QRコードから



引き続き、森林環境教育を行うNPO等関係機関と連携しながら取り組んでまいります。

◆おわりに

近畿中国森林管理局では、本手引書を管内の各府県及び各市町村の教育委員会に配布するほか、ウェブサイトにも掲載し、積極的に活用を促してまいります。

当センターでは、これ以外にも、オリジナルの環境教育プログラム「森の探検隊」（写真2）、森林環境教育に関心のある教員向け研修（写真3）、子どもたちに森林の魅力を伝える創作紙芝居（写真4）や絵本の作成などを実施しています。

各プログラムでは、①学習指導要領との関連を明確化、②「テーマの目標」を提示し、分かりやすい内容になっています。

みんなでつないでタペストリー」、「新聞棒 森を感じる!（造形遊び）」、「水の流れのように（粘土・焼き物）」、「森のライト」